

工藤篤子メールマガジン 142号

2009.07.14

●オランダ・ベルギーのコンサート

前回のメール後、たくさんの方々からお見舞いと励ましのメールをいただきました。おひとりおひとりにお礼のメールを書くことができなかったこと、どうぞお許してください。この紙面を借りて、皆さまのお祈りと励ましに、心からお礼申し上げます！

6月22日にオランダのアイントホーフェンに向か

い、ピアニストのペイトン朝子さんとコンサートの準備を始めました。ペイトンさんのお宅のことは、以前、メルマガ26号 http://atsukokudomm.com/pdf/026_20030404.pdf にも書かせていただいた

ことがあります。日本人集会を開くために、主がペイトンご夫妻に与えてくださった素晴らしい家です。広大な牧場、林、花々が咲き乱れる庭の中に、家族の住居、14人が宿泊できる宿舎、羊小屋と呼ばれる小さなチャペルがあります。



コンサートの準備のために、朝子さんと私は、毎日、多くの時間を練習に当てましたが、美しくゆったりとした空間の中での祈り、主にある分かち合い、食事、団欒、その中で進められる練習のすべてが、神の安息にすっぽりと包まれてしまったかのようでした。帯状疱疹後、十分でなかった体力も、こちらへ来てから3日目には、すっかり回復したのを感じました。

●アムステルダム

6月26日、オランダ日本語教会(JCFN、カール・デボア師)の主催で、アムステルダム郊外、アムステルフェーンにあるブランツマ教会(水の教会)にて賛美コンサートをさせていただきました。ピアノのペイトン朝子さんの他に、リコーダーの斉藤文誉(ふみたか)さんと、ゴスペル・ソングのOh What a Beautiful Cityでは、ソプラノの荒川詠子(うたこ)さんが共演してくださいました。ブランツマ教会の素晴らしい響きの中で、私たちのつたない賛美の歌声と楽器の音色さえ、銀色の糸と化して主のもとへ立ち上ってゆくのではないかと思わされたほどでした。

リコーダーの斉藤さんは、曲によって、お手製の小さな笛、アルトリコーダー、バスリコーダーと、さまざまな笛を駆使してください、それぞれの曲にえもいわれぬ賛美の音色を加えてくださいました。イエス様を心から愛しておられる詠子さんと声を合わせて賛美したOh What a Beautiful Cityでは、12の門のある天のみ国が光り輝いて見えてくるようでした。

コンサートには、日本人の他に、多くのオランダ人も来て下さいました。コンサート後、茶話会に残られたおひとりおひとりとお話しさせていただくことによって、コンサートに引き続き、良き伝道の時となりました。



●アイトホーフエン



賛美コンサートをさせていただきました。来場者の多くがオランダ人でした。

前方にずっと泣いておられる女性が座っていました。彼女は、いわゆる普通のソプラノコンサートだと思って来たら、そこで神様のことばを聞き、「今日、イエス様が傷ついた私の心に慰めと励ましを与えてくださった、前に進む元気をいただいた」と喜んで帰ってゆかれました。

この日の夜遅く、私は口内炎がひどくなり、耳まで痛くなって、口がきけないほどになりました。デボア先生がコンサート・スタッフの皆さんと共に祈ってくださいました。「これがもしサタンの攻撃によるものでしたら、主よ、あなたが勝利してくださいますように。けれども、もしこの痛みに関わらずあなたの計画があるのでしたら、そのような中でも、アツコさんがあなたを心からほめたたえることができますように」。祈っていただく中、不思議な平安が与えられ、痛みが少しずつ和らいでいくのが分かりました。翌日目が覚めると、もうほとんど痛みも口内炎も消えており、元気にブリュッセルに行くことができました。



6月28日29日、ヨーロッパ在住日本人クリスチャン婦人数名とともに、ペイトンさんのお宅で、「熟女の会」と称される、みことばの学びと祈りの会に参加させていただきました。最初は何ともすごい名称だと思ったのですが、皆さん、確かに、信仰者としても、人格的にも、実に成熟した、熟女と呼ぶにふさわしい方々でした。その方々とのみことばの分かち合いと祈りは、私たちの中心にイエス様がいてくださることを実感し、神の愛に溢れる素晴らしいひとときでありました。

7月4日(土)、電化家電メーカー、フィリップスの町で有名なアイトホーフエンの改革派教会で、

●ブリュッセル



7月5日(日)、オランダ国境を越えて、ベルギーのブリュッセル向かいました。まず午後2時から、現地の福音派教会を借りて行われているブリュッセル日本語プロテスタント教会(岡田直丈牧師)の礼拝に出席させていただきました。その後、4時半から賛美コンサートが始まりました。

この日、詩篇65編の「神よ、あなたの御前には静けさがあり、シオンには賛美があります。あなたに誓いが果たされますように。祈りを聞かれる方よ。みもとにすべての肉なる者が参ります」が与えられ、罪人を赦してくださる主の御前に、厳粛に、けれども溢れる感謝と平安に包まれて立たせていただき、心からの賛美を捧げることができました。

コンサートの後、私は、来て下さった皆さんおひとりおひとりに挨拶をさせていただいたのですが、ベルギー人には、非常につたないフランス語で挨拶をさせていただきましたら、とても喜んでくださいました。そして、多くのベルギー人もコンサート後の「手巻ずしの会」に参加され、私の生い立ちに関してたくさんの質問をしてくられました。教会の姉妹、睦美さんのフランス語通訳のお陰で、日本語—フランス語で、コンサートではお伝えしきれなかった詳しい信仰の証しをさせていただくことができました。



●通訳とパワーポイント

今回のコンサートでは、JCFN、ブリュッセル日本語教会の皆さんが、祈りと共にたくさんの準備と献身的なご奉仕をしてくださいました。

中でも、オランダ人でカナダ育ち、日本で長年伝道なさって来られたデボア先生は、私の証しを、アムステルダムのためには英語、アイントホーフェンのためにはオランダ語に時間をかけて丁寧に訳し、コンサートでは素晴らしい同時通訳をしてくれました。お陰で、ブリュッセルでも、デボア先生の英語訳原稿を使用させていただくことができました。



また、伝道スピリット溢れる JCFN の梅澤さんが、私が先にお送りしたパワーポイントのデータに、アムステルダムでは英語訳、アイントホーフェンではオランダ語訳、ブリュッセルではフランス語訳を書き加えてくださいました。英語、オランダ語は梅澤さんご自身が訳し、さらに、音楽に精通したクリスチャンにチェックしてもらい、フランス語訳は、ベルギーのブリュッセル地方で話されるフランス語を知る友人に訳をお願いしてくれました。しかも梅澤さんは、お仕事を調整して、3か所のコンサートに同行してくださいました。

今回は、日本人のみならず、オランダ人、ベルギー人にも、証しの内容と歌う歌詞の意味を同時に理解していただくことができました。デボア先生と梅澤さんのご奉仕に心から感謝しています。（写真：オランダ JCFN の皆さんと。右がデボア師、その横の赤いシャツの青年が梅澤さん）

●お祈りください

○オランダ、ベルギーのコンサートを通して、心開かれ、礼拝や聖書の学びに参加したいとおっしゃられる方が何人かおられます。どうぞその方たちが、救いへと導き入れられますようお祈りください。また、今回のコンサートで蒔かれた種が、主の時に、主が芽を出させてくださいますよう、お祈りください。

○オランダ JCF、ブリュッセル日本語教会を主が守り、導き、祝福して下さいますようお祈りお支えください。

○8月5日～9日、フィンランドにて「第26回ヨーロッパ・キリスト者の集い」が開催されます。私は、大会プログラムの賛美コーディネーターのひとりとして奉仕させていただくことになっています。私たち

がひとつみ霊にあって、心から主を賛美礼拝し、主の栄光が現される時となりますよう、お祈りください。

次回は、フィンランドへ行く前に、一度、みなさんにメルマガをお送りさせていただく予定です。

素晴らしい季節のこの時、主の溢れるご愛と恵みが、皆さまとともにありますように！

工藤篤子